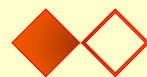


市営バス車両のあゆみ



市営バスは、開業以来、様々な車両を導入してきました。

導入した車両は、外国車から始まり国産車に移行し、車型もボンネット型から現在の箱型へと変化しています。さらに、燃料もガソリンから始まり、燃料が枯渇した時代の木炭バスや電気バス、その後の燃料安定供給や技術進歩に伴い、バスには軽油を使用したディーゼルエンジンが主流となりました。

現在では、道路状況や製造技術、材料の進歩から耐久性、安全性が向上しており、大量輸送が可能となりました。

個性豊かな昭和の厳しい時代を走り抜けてきたバスの一部をご紹介します。



開業当時のバス、A型フォード 14人乗り保土ヶ谷発、本牧ゆき（昭和3年11月）



創業当時のバスと乗務員、浅間町車庫（昭和3年暮）



木炭バスのガス発生作業（昭和17年頃）



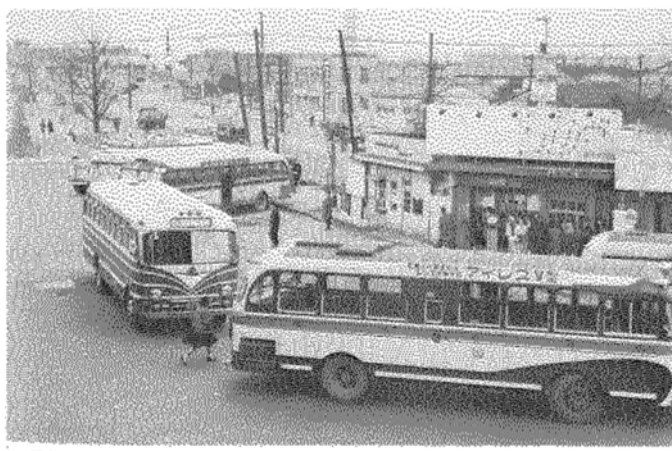
電気バス1号車（昭和21年8月）



船舶用のディーゼルエンジンを搭載した交通局技術陣の傑作、通称「ポンポン」（昭和 23 年頃）



横浜駅西口を起点に運行を開始したトローリーバス（昭和 34 年）



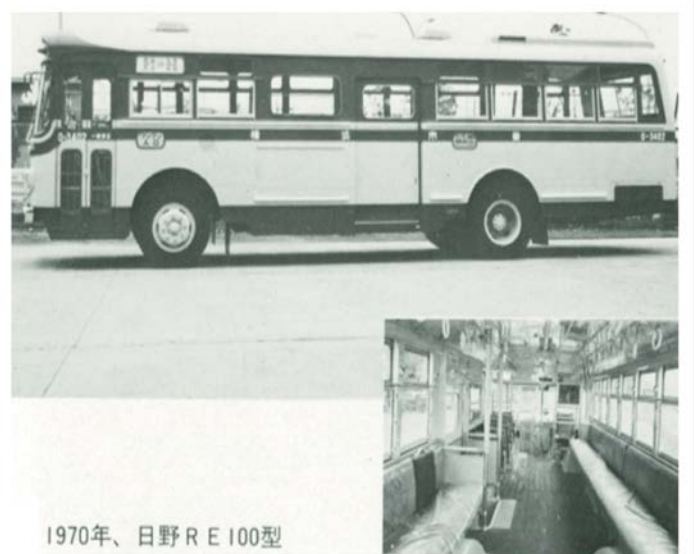
旧式となったボンネットバスは次第に姿を消していった（昭和 34 年）



横浜駅前ターミナルに安全島が出来バス停の標識も共同式になった（昭和 43 年）



日産 4R94 型 前輪部の波型曲線を廃止し、水平線で結ぶデザインに変更（昭和 43 年）



1970年、日野 R E 100型

ワンマン専用車

中扉後部にあった車掌席を廃止し、引き違い窓が固定窓となり扉の開閉を運転席で操作するようにした[三方シート]（昭和 45 年）



1972年、日産PR105型

座席上張り生地をスパンナイロモケットに変更、前向シートにし急停車の反動等による車内事故防止を図った。
また日産車（三菱・日野車も）の大型ワンマン専用車もこの年採用した。



(昭和47年)



いすゞBA341 (昭和32年)



国産の二階建バス (Blue Line)
(昭和59年)



いすゞ P-LV314L (大型専用)

5-1602~1609 8両 (11連車体)

60.6.14.



(昭和60年)



日野観光車 (昭和 60 年)



元祖、ボディペイントバス横浜博覧会 (YES89)
「ブルアちゃん」(昭和 63 年)



← (昭和 63 年) →



ベ이스ターズ優勝パレードで使用したオープンバス
昭和の車両を使用した傑作品です！ (平成 10 年)

